



お盆の風習 それぞれ



お盆の風習は本当に地域でさまざまです。お盆に必ずサバを食べる地域もあれば、庭先に竹などで作った高燈籠を立てる地域もあります。同じ神奈川県でも東と西、海側と山側ではかなり異なる事があります。

このしおりは横浜市神奈川区で生まれ育った住職が見聞きして体験した一般的と思われる風習を掲載させて頂きました。ですので、こうしなくてはいけないというものでは決してありません。しおりには載っていませんが、多少異なる風習がご家庭にはおありだと思います。その際

はぜひそちらを選んで下さい。そのルーツはおそらくご先祖さまの生まれた地域の風習なのだと思います。そしてそれは、ご先祖様が大切に守り貫いてきた証です。それらを更に皆さまのお子様やお孫さんが代々受け継いでいくという事はとても素敵なことだと思います。

何はともあれ、受け継がれてきた伝統の形は私たちの心を調える力があります。亡き人との良き再会となる様切にお祈りしております。

合掌



お盆のしおり





補足説明はこちら

①新盆 忌明け後の初めての盆
『あらばん』に『いぼん』と読むこともある
また『初盆』と呼ぶこともある

②トラちゃん 日光院のトラネコ
日光院のYouTube動画にも登場しています

③精霊棚 精霊棚は亡き方をお迎えし
供物を供えたり盆飾りを施すための
大切な場所です
地域や住宅事情によって作り方はそれぞれです

作り方
一 1から2段の棚を仏壇の側に設置
二 棚の上にマコモや白い布を敷きます
三 棚の四隅に葉のついた青竹を立てしめ縄をはって
悪い霊が来ないよう結界をつくりほおずきなどを
垂らします

四 棚の奥にお位牌を安置し手前に香炉や
盆飾りなどを置きます

五 経机などを棚の前に置きリンなどをおきます

④迎え火 亡き方が迷わずに帰ってこれるよう
うに13日夕方までには迎え火を致します

⑦送り火 お迎えした方々をお送りするために15日の
夕方に炊きます
日には地方や家庭によって違い16日とも
いわれています

火の材料はおがらが一般的
焙烙と呼ばれる素焼きのお皿などの上で炊きます

⑤キュウリの馬 キュウリは馬に見立てられ
『早く家に帰って欲しい』
という祈りがこめられています
ナスは牛に見立てられ
『景色を見ながらゆっくり帰ってほしい』
という意味がこめられています

⑥13日から15日 16日までのところもあります

⑧ナスの牛

⑨棚経 一 ござそう 野菜や果物
霊膳や夏野菜 故人の好物
二 苗でたそうめん
お土産を結び紐がわりになるといわれて
いる
三 水の子 生米 ナス キュウリ等をさいの目に
切って水に浸し混ぜたもの
故人だけでなく餓鬼や無縁仏の供養を
する意味もある

四 お団子 お迎えしたら疲れを癒す甘いあんこの
『迎え団子』
14日はおはぎなどの『落ち着き団子』
15日はお土産用の白い『送り団子』を
供えます

⑩施食会 お寺で行う合同の盆供養です
餓鬼や無縁仏に食べ物や施した生きた功徳を
亡き人に振り向ける特別なもの
日光院では毎年7月10日におこなっています

⑪YouTubeライブ配信 日光院のYouTubeサイトから施食会の様子や
寺の日常をご覧いただけます
是非チェックしてみてください

<https://www.youtube.com/shucod927>

しんぼん
新盆



亡くなった方の忌明け後（49日供養の後）、初めて迎えるお盆を「新盆（初盆）」と言います。

新盆は故人のみたまが初めて家に戻ってくる時。親族や友人など、大勢揃ってにぎやかに迎えたいものです。

新盆は特に僧侶に読経してもらったり、集まった皆さまと一緒に会食をする慣わしもあります。気をつけたいのが、新盆だけは絵柄の入った提灯の他に、絵柄のない白い提灯を用意します。白い提灯は初めて戻ってくる故人のみたまが迷わないように吊り下げるもので、新盆の時だけに用いる特別な提灯です。

初めて帰ってくる新盆、にぎやかに精一杯のおもてなしをしてお迎えしましょう。



白提灯

絵柄のついた提灯とは別に用意します。故人が目印に帰ってくるといわれ、玄関先や軒下など、外に見えるように吊り下げます。

参考 お盆のながれ

お盆の期間は7月13日から15日迄の3日間（風習により16日迄の4日間）で、主に東京・横浜・千葉・静岡以外は8月に行います。

◆6月～7月

事前準備

- ・仏具屋やホームセンターなどでお盆用品の購入
- ・位牌、仏具のお手入れ



◆7月10日午後2時

お盆の供養祭 陽光院「施食会」



◆7月10日～13日

お迎えの準備

- ・お盆の祭壇「精霊棚」
- お盆飾り、お供え始め



◆7月13日

お墓参り

迎え火

- ・夕方頃、迎え火を焚いてご先祖さまをお迎えします



◆7月13日～15日

おもてなし・会食

- ・料理などを作りお供えし、親族友人も招いてにぎやかに会食棚経
- ・特に新盆の方は自宅でお坊さんの供養も



◆7月15日夕方又は16日の朝・夕方

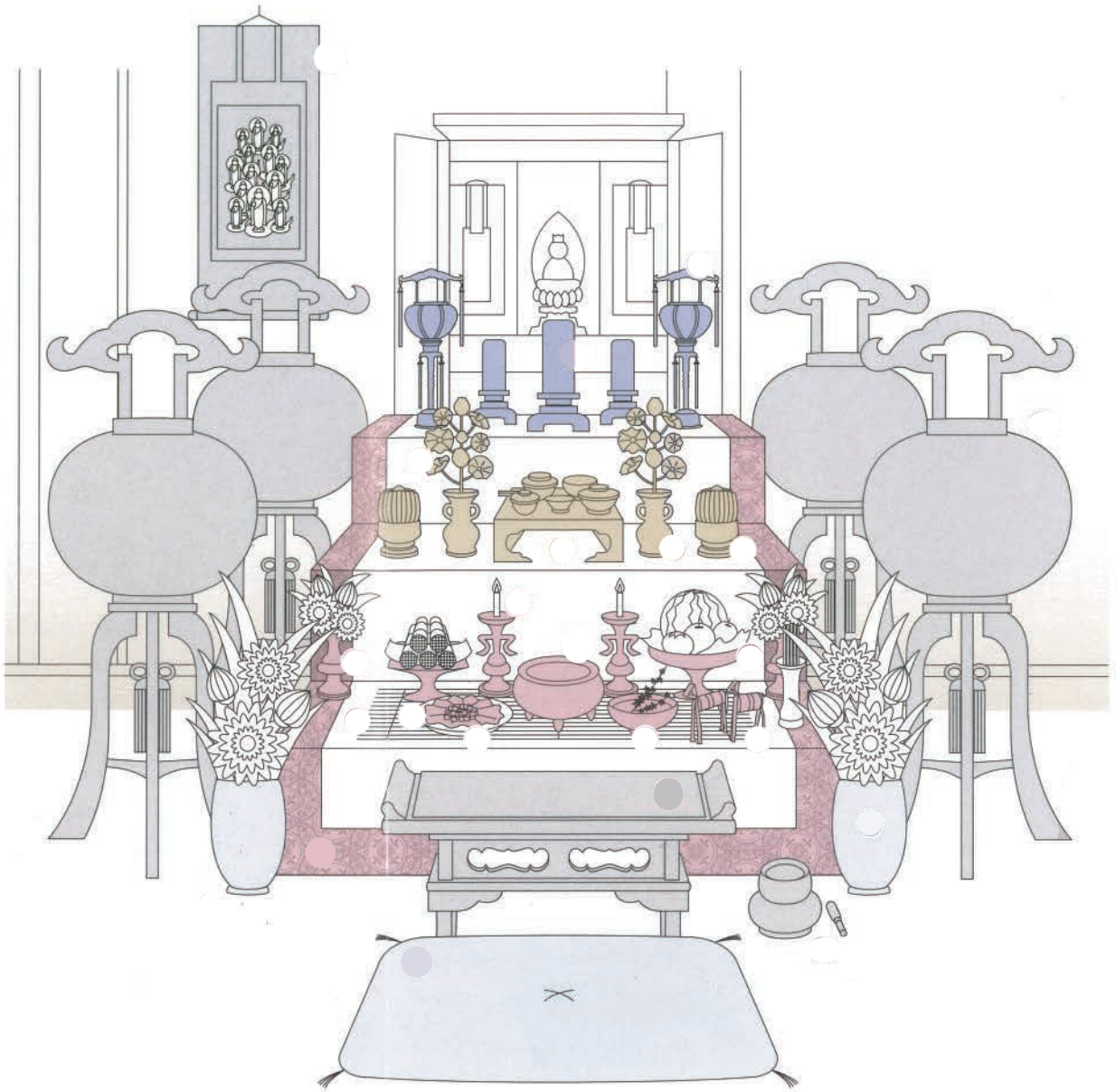
送り火

- ・送り火を焚いてご先祖さまをお送りします



図：お仏壇のはせがわ提供

② お盆その二 精霊棚・盆棚をつくる



お盆には、上図のように仏壇の前やそばに二〜三段の棚を作り、その上にまこもや白布、どんすなどを敷いてお盆飾りを施します。この棚を精霊棚しょうりやうだなまたは盆棚ぼんだなと言います。

これは亡き方々をお迎えし、お供物を供えたり、盆飾りを施すための特別な祭壇です。棚やどんすは仏具屋などでも揃えることが出来ます。

しかし、都会の住宅事情では、なかなかスペースがなく精霊棚を設ける事は難しくいかもしれません。

その場合は、仏壇の前に小さな机を置いて、その上にまこもや白い布を敷き、盆飾りやお供え物などを供えましょう。

昔ながらの精霊棚の作り方

- ① 一〜二段の棚を仏間や座敷に設置します。
- ② 棚の上にまこもや白い布などを敷きます。
- ③ 棚の四すみに葉のついた青竹を立て、しめ縄をはって悪い霊が来ないよう結界をつくり、ほおずきなどを垂らします。
- ④ 棚の奥にお位牌を安置し、手前に香炉や盆飾りお供え物などを置きます。
- ⑤ 経机などを棚の前に置き、リンなどを置きます。

お盆コラム2



① ごちそう・精進料理・野菜やくだもの



お盆にはごちそうを供えよ。と、あるお経にも書いてあります。伝統的な霊膳や夏野菜、果物などを供えます。また精進料理にこだわらず、故人のお好きだった物を供えるのも良いでしょう。

② そうめん



みたまがお帰りになる際にお土産を結ぶ紐代わりになるとも言われています。お送りする日に茹でたそうめんをお供えしましょう。

③ 水の子



生米、ナス、キュウリ等を細の目に切って少量の水に浸し、混ぜ合わせた物が水の子です。これは普通の食事を取ることが出来ない餓鬼道に落ちた無縁仏のためにお供えします。無縁仏の供養をして、故人の供養へつなげるという意味や、あらゆるみたまへの供養を施すという慈しみの心が込められています。

④ 団子



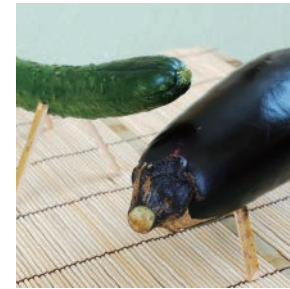
お迎えをしたら、疲れを癒やす甘いあんこの「迎えだんご」を、14日はゆっくり食べることの出来るおはぎ等の「落ち着き団子」。15日はお土産用の白い団子の「送りだんご」を供える風習もあります。

⑤ お盆その五

お供え物を供える

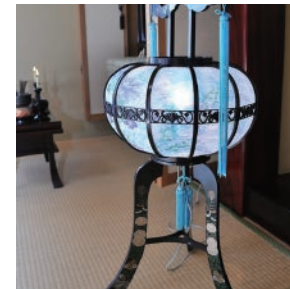
亡き方々をお迎えしたら、滞在中は様々な食べ物をお供えします。次に伝統的な物を紹介します。

① きゅうりの馬とナスの牛



キュウリは馬に見立てられ、「早く家に帰って欲しい」という祈りが込められています。ナスは牛に見立てられ、「景色を見ながらゆっくり帰って欲しい」「沢山のお土産を持ち帰って欲しい」という祈りが込められています。作り方は割り箸などを折ったものを、ヘタ部分が頭になるようバランスよく4本刺すだけ。昨今ではキュウリやナスは用いず、わらで模したものを使う事が多いようです。

② 盆提灯



亡き方々が迷わず帰って来る為の目印で、絵柄の入った提灯と白い提灯があります。絵柄の入った提灯は精霊棚(盆棚)の周りに置きます。白い提灯は新盆の時のみにお飾りする物で、初めて帰ってくる故人が分かりやすいように軒先や窓際に吊します。白提灯はお盆が終わったら処分します。絵柄の入った提灯はご親戚から頂く事も多いので、その際にはぎやかに飾りましょう。

③ ほおずき



亡き方々は迎え火や提灯の灯りを頼りに戻ってくる事から、ほおずきも提灯に見立てて飾ります。しめ縄を張って逆さに吊るすのが伝統的ですが、お供えのお花に添えてもよいでしょう。

④ まこもの敷物



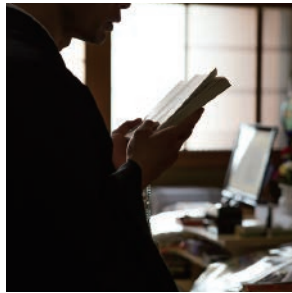
まこもは薬用成分を含んだ植物で、お釈迦さまがまこものむしろに病人を寝かせて治療された仏話から、お盆の敷物にも使う様になったと言われています。

④ お盆その四

盆飾りをする

お盆には次のような盆飾りを施しましょう

① 棚経



お盆中には、自宅に僧侶を呼びお盆の供養を丁重に施す風習があります。これを棚経(たなぎょう)といいます。陽光院では近隣の新盆宅、以前よりお伺いしているご家庭へご案内のハガキを6月中にお出ししております。その他の方でご希望の方は陽光院までご連絡下さい。
※コロナ禍においては新盆のご自宅のみのお伺いとしております

② 施食会(お盆の合同供養)



陽光院ではお盆供養を施食会(せじきえ)という合同法要を通して行います。この法要は、数十名もの僧侶の読経と、餓鬼や無縁仏に食物を施して生まれた大きな功德を亡き人に振り向ける特別なもので、毎年、7月10日午後2時より行っています。特に新盆の方は丁重にご供養するためにもお申込なさるようおすすめ致します。

令和3年7月10日(土)午後1時法話 2時法要
申込方法: 申込用紙・WEB

③ 初めての盆講座



初めてお盆を迎える方、今年から始めてみようと考えている方、毎年行っていたけど正しいお盆の過ごし方を学ぼうという方まで、お盆の風習を一からわかりやすくお伝えする講座を行います。どなたでもご参加出来ますので、お気軽にお申込み下さい。

令和3年6月27日(土)午後2時～3時
定員: 15名 参加費: 無料 予約方法: 電話・WEB

お盆が終わったら



お盆を終えて役目を果たした白い提灯や牛馬は、以前は送り火の時に一緒に燃やしたり、川や海に流したりもしていましたが、環境の問題であまり行われなくなりました。とはいえ家庭ごみで出すのはやはり良い気分がしません。お寺で無料にてお焚き上げを致しますのでご遠慮なくお持ち下さい。

⑥ お盆その六 更なるご供養を

① 迎え火



「迎え火」は亡き方々が迷わずに帰って来られるよう目印として焚く火の事をいいます。お盆初日の13日夕方迄にはこの迎え火を致します。
焚く場所は玄関や庭先など。マンションでしたらエントランス前などでしょうか。火の材料はおがらが一般的で、焙烙(ほうろく)と呼ばれる素焼きのお皿などの上で焚きます。
尚、お墓の前や少し離れた場所から導く際は、焚いた火を提灯などで自宅まで持ち帰りローソクに灯して亡き方々を導く事もあります。それぞれ火の扱いには十分注意致しましょう。

② 送り火



「送り火」はお迎えした方々を今度はお送りするために焚く火の事をいい、15日の夕方に焚きます。この日にちに関しては、地方やご家庭によって異なる事が多く、昨今では16日の朝や夕方とも言われています。京都の大文字焼きなどは16日の夕方です。
また、地方により精霊船に乗せてお送りする「精霊流し」などの風習もあります。



打ち上げ花火

元々は精霊を供養する行事が始まりとされています



盆踊り

亡くなった方の霊を迎え、慰めるための踊りです



五山送り火

みたまを送るために盛大に焚く火で京都の伝統行事です



灯籠流し

盆飾りや供物を小さな舟に乗せて川に流す行事

お盆コラム 3

日本のお盆行事

⑤ お盆その五 迎え火・送り火